

肺炎球菌ワクチンの費用対効果等についての社会の立場からの評価研究

分担研究報告書

高齢者の QOL に関する調査研究

研究分担者 五十嵐 中（東京大学大学院薬学系研究科 特任准教授）

研究要旨

研究目的：肺炎球菌ワクチンの費用対効果を分析する際に必要となる高齢者の QOL について調査することを目的とした。

研究方法：東京都大田区の「たかせクリニック」にて在宅診療を受けている患者に対して研究計画の説明を行い、同意を得た上で、患者の臨床情報ならびに QOL データを収集した。さらに、調査期間中に患者が肺炎に罹患した際には改めて QOL を調査することとした。

結果：102 名の患者および必要に応じて代諾者に対して研究計画の説明を行い、56 名より同意が得られた。23 名には QOL を複数回測定した。QOL 値の最小値は-0.043、最大値は 1.000、平均 0.606、標準偏差(SD)0.218 であった。

男性（のべ 38 名）の QOL 値(平均±SD)は 0.633 ± 0.197 、女性（のべ 57 名）は 0.589 ± 0.231 であった。年齢が高いほど QOL 値が低い傾向が認められた。脳血管疾患がある患者の方が QOL 値が低かった。また、ADL 値が高い方が QOL 値が高い傾向が認められた。

調査期間中に肺炎に罹患した患者はいなかった。

まとめ： 高齢者を対象とした費用効果分析を行う際には、対象者の年齢や基礎疾患、ADL 等の状態に留意して分析を行う必要があると考えられた。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

高瀬義昌 医療法人社団至高会たかせクリニック理事長

A. 研究目的

沈降13価肺炎球菌結合型ワクチンについては、平成27年12月に開催された厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会第2回ワクチン評価に関する小委員会において、モデル解析による費用対効果等の分析・評価を実施することとされた。

そこで本研究では、肺炎球菌ワクチンの費用対効果を分析する上で必要となる高齢者のQOLについて調査することを目的とした。

B. 研究方法

東京都大田区の「たかせクリニック」において在宅診療を受けている患者および必要に応じて代諾者に対して研究計画の説明を行い、同意を得た上で、患者の臨床情報ならびにQOLデータを収集した。QOL調査はEQ-5D-5L日本語版を使用した。さらに、調査期間中に患者が肺炎に罹患した際には改めてQOLを調査することとした。

なお、本研究は国際医療福祉大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号17-Im-001)。

C. 研究結果

102名の患者に対して研究計画の説明を行い、56名よりが得られた。男性19名、女性37名、年齢は60代が2名、70代が7名、80代が34名、90代が13名であった。基礎疾患は、認知症が40名、脳血管疾患が6名、心不全が5名、悪性腫瘍が5名、腎不全が3名、糖尿病が3名、末梢動脈閉塞性疾患が2名、冠動脈疾患が1名、その他が56名であった。

調査期間中に肺炎に罹患した患者はいなかった。

56名のうち、33名にはQOLとADLの調査が各1回のみ、12名には各2回、6名は各3回、5名は各4回実施されていた。

QOL値の最小値は-0.043、最大値は1.000、平均0.606、標準偏差(SD)0.218であった。

男性(のべ38名)のQOL値(平均±SD)は0.633±0.197、女性(のべ57名)は0.589±0.231であった。

60代(のべ4名)のQOL値は0.742±0.181、70代(のべ9名)は0.734±0.122、80代(のべ56名)は0.623±0.204、90代(のべ26名)は0.505±0.241であった。

脳血管疾患あり(のべ14名)のQOL値(平均±SD)は0.596±0.287、脳血管疾患なし(のべ81名)は0.608±0.206であった。

ADL値とQOL値との関係を図1に示した。

D. 考察

男性の方がQOL値が低く、年齢が高いほどQOL値が低い傾向が認められた。脳血管疾患がある患者の方がQOL値が低かった。また、ADL値が高い方がQOL値が高い傾向が認められた。

調査期間中に肺炎に罹患した患者はいなかったため、肺炎によるQOLの低下については確認できなかった。

高齢者を対象とした費用効果分析を行う際には、対象者の年齢や基礎疾患、ADL等の状態に留意して分析を行う必要があると考えられた。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

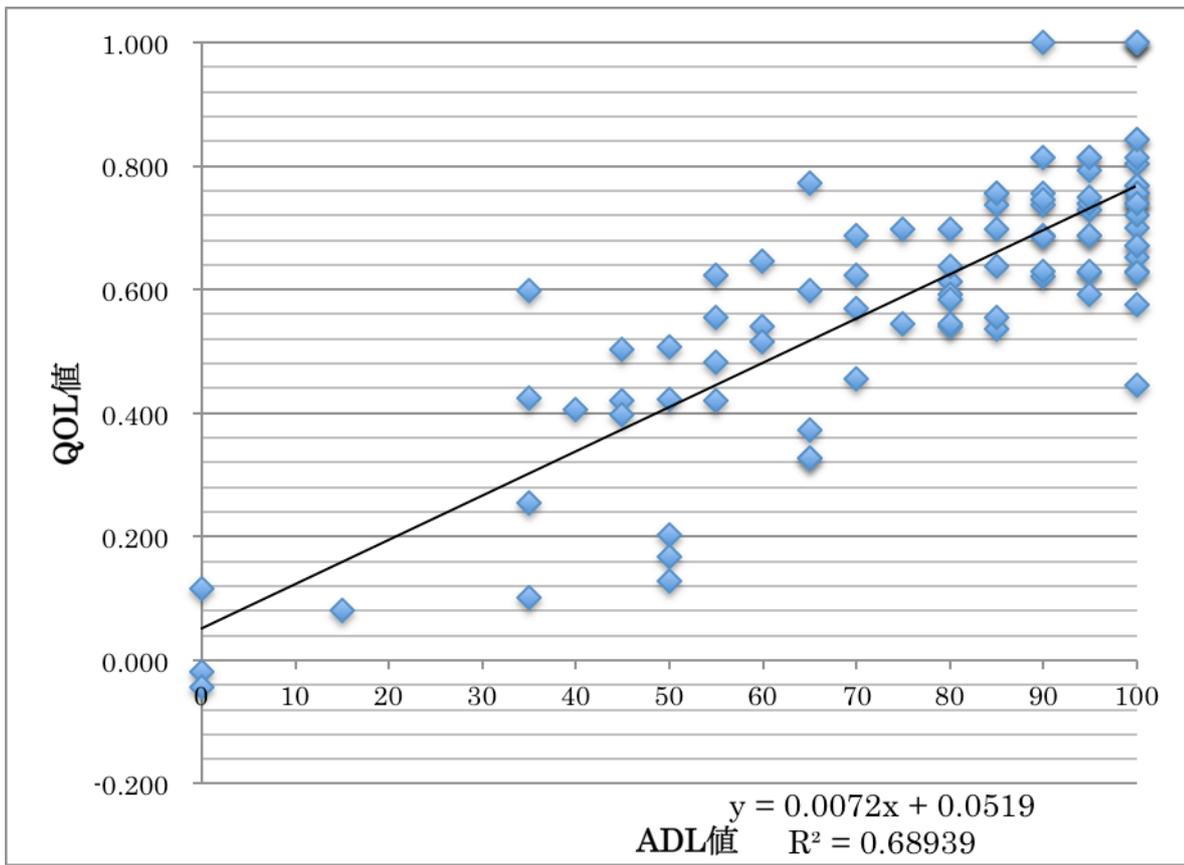


図1 AOL 値と QOL 値の関係